

四角ノリ

様式(細則 5-2)

平成 28年 3月 7日

浜田市議会議長 西田 清久 様

議員名 柳楽 真智子



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので、その結果を報告します。

記

1、期 間 平成 27年 10月 25日 ～ 10月 27日

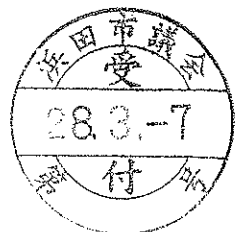
2、視察又は訪問先

- 愛知県北設楽郡豊根村 高齢者買い物支援 「お使いポンタ便」
- 石川県金沢市 日本版CCRC 「シェア金沢」

3、調査経費

合計 56,753 円

・旅費	JR運賃	39,610 円
	宿泊料 (浜松市・金沢市)	10,800 円
・浜田～広島往復	高速料金・ガソリン代・駐車料金	2,331 円
・浜松～豊根村往復	高速料金・ガソリン代・レンタカー代	2,486 円
・金沢駅～シェア金沢往復	タクシー代	1,526 円



4、調査活動の概要

○ 愛知県 豊根村

愛知県豊根村は、長野県と静岡県との県境に位置しており、県内最高峰の茶臼など1,000メートル級の山に囲まれている。スキー客や芝桜を見に来る人など年間60万人の観光客が訪れる。

平成17年に日本一小さな村であった富山村と合併。人口1,200人で530世帯、面積は156k㎡の小さな村で、高齢化率は46%に達している。

基幹産業は林業が93%を占めている。

「お使いポインタ便」について

できるだけお金をかけずに、長続きする仕組みができないだろうかと考えたもので、ビジネス的に収益が上がるものではなく、社会保障的な捉え方で始めた取組みである。

村内にタクシーが無い全国初の取組みとして、平成15年からシルバの方に登録してもらい、予約型の移動支援（がんばらマイカー制度）が始まった。この制度の利用者である111人が買い物弱者と考えられる。

商店は人口減で売り上げが減り20年間で7店舗が閉店。現在8店舗が残っている。

事業のねらいとして、買い物弱者の支援、地域商店の維持・活性化、高齢者の生活支援を何とかできないかと悩んでいたところ、郵便局から地域に協力したいとの申し出があり、平成27年6月から検討会を開始した。

平成27年7月から、豊根村買い物支援サービス「お使いポインタ便」を開始した。実施者は豊根村であるが、事務は豊根村商工会に委託。現在は富山地区を除く豊根村住民が対象である。

登録店舗は5店舗で利用者は事前に登録。買い物が必要な前日（午後3時）までに店舗に電話連絡し、商店は申し込みのあった日の午後4時までに郵便局へ連絡する。商品は翌日の通常郵便物の集配に合わせて配達する。商品代金は月末締め翌月15日に郵便局の口座から引き落とされる仕組みとなっている。

送料や手数料の利用者負担は無く、村が郵便局に支援している。隣の地域から生協が入っているため積極的に進めることはしていないが、登録者が35名でこれまでに19件の利用があった。

役場での説明の後、郵便局と商店で話しを伺いました。

感想

交通の条件もよいとは言えない地域で、人口減少と高齢化が進む中、何とかして地域や高齢者を支えなくてはどの思いが強く感じられました。

浜田市でも見守り事業として、郵便局との連携をとっている地域はありましたが、買い物弱者支援として行政と郵便局の連携は、全国で豊根村が初めてとのこと。認知症徘徊の見守りについても、毎日地域を回られる郵便局との連携が有効ではないかということを訴えた経緯もあり、今後の連携について必要性をより強く感じました。

○ 石川県金沢市 「シェア金沢」

運営主体は社会福祉法人「佛子園」で、産前産後ケアや子どもから高齢者まで、誰もが支え合って共に暮らすまちづくりに取組んでおられる。

敷地内にはサービス付き高齢者住宅以外に、学生住宅や児童入所施設があり、商店も入っている。本館には天然温泉やレストラン、ギャラリー空間があり、地域住民も利用できるようになっている。

他にも屋外にアルパカ牧場やドッグラン、農園、ライブハウスなどが整備されている。施設の前にはバス停も設置され、移動手段も確保されている。

1日に数件の視察の受入れをされており、注目を集めている施設である。

施設長の説明

お寺で子どもたちを預かっていたことが始まり。

理事長は、タテ割りの福祉が高齢者・障がい者・子どもというように、分けてし

まっていると感じた。

ここでは産前産後のお母さんの相談スペースも設置。障がいのある子どもが帰ってくると、学生住宅に住む学生が寝かせるところまでお世話している。

外国からの留学生もいるが、高齢者は留学生が寂しくないようにと気遣い、食事を一緒にするなどして交流を深め、お互いに支え合って生活している。

シェア金沢内で生活する学生や商売を行う人のすべてに、ボランティア活動をすることが条件としている。

高齢者住宅の入居者は半分が県外から来た人で、ホームページを見て問い合

敷地内だけで孤立することがないように、近隣の住民や保育園など自由に利用してもらっている。レストランや温泉も、入居者だけでなく地域に解放しており、1日に1,500人くらいの方が訪れている。

必要以上の支援をするよりも、お互いのできないところを補ったり、見守り支えることが介護度を上げないことや、自立に繋がると考えている。

感想

高齢者が自らの希望に応じて地方に移り住み、介護が必要になっても移転することなく、必要な介護を受けることができるとする「日本版CCRC」の取組みに合わせ、出産期から高齢者までのすべての年齢や障がいに応じた支援を行う取組みは、大変素晴らしいと感じました。「シェア金沢」の他にも、古いお寺を活用した地域コミュニティの場を設け、住みやすい地域になったことで、人口が増加しているという事例も伺いました。

浜田市にもこれに近い取組みをされている法人があることを考えると、今後このような取組みが進むことに期待が持てると感じました。